中村眞一議員（議会報ダイジェスト）Vol.5
台風19号特集 / 特別号

発行日／令和２年２月10日
発行人／眞和会　会長中村平次
〒389-0802　千曲市内川484－1
TEL(026)275-0671　Email:45basie@gmail.com

若宮八王子地区の水害

中村眞一議員　台風19号で被災地や避難所を回る

被害の実態を報告し、避難者の要望を市に助言

令和元年に発生した台風19号は、10月12日から13日にかけて長野県内各地域に甚大な被害を及ぼしました。千曲市でも粟佐・杭瀬下など多くの地区で住宅の床上・床下浸水に加え、農地や公共施設などにも大きな被害が出ました。

市では12日午後から避難勧告をし、避難所を開設しました。夜になると市内の川の冠水などが報告され、新たな避難所も次々と開設、市も対応に追われました。しかし新しくなった市役所の駐車場まで水があふれ、避難所でも水害を受けるなど、予想外の事態が起きてしまいました。未曽有の大水害であったため、市の対応が十分とはいかなかったのですが、市職員や関係者の皆さんは、それぞれ大変なご苦労されたと思います。改めて感謝いたします。

中村眞一議員は12日から13日にかけて、避難所の訪問や被災地の視察をして、市役所の災害対策本部へ被災状況や避難者の要望などを伝えました。

台風19号発生時の中村議員の主な行動

10月12日

17時	内川区長等と避難所や要支援者の支援などの打ち合わせ
19時30分～24時	避難所（五加小学校、戸倉上山田中学校、旧戸倉庁舎）を３回訪問し避難者の名簿づくり、環境、支援物資などを市の担当者、学校関係者と打ち合わせや依頼

10月13日

6時	避難所（五加小学校、戸倉上山田中学校、旧戸倉庁舎）を訪問。避難者の状況などを聞く
6時30分	八王子、戸倉温泉、温泉の水害地３カ所視察、地域の区長と会談。
9時30分	市対策本部を訪問し、区長への対応、ゴミ処理について聞く
10時	避難場所、ことぶきアリーナ視察、避難者を激励。その後、杭瀬下から土口・雨宮・生萱を視察し、対策本部に報告

避難所を回って、避難者名簿の記入方法や、布団や毛布などがないなど、環境の不備を指摘した中村眞一議員は、平成28年９月議会の一般質問で水害を想定した危機管理について質問をしています。洪水が発生した時の避難施設は十分ではないので、見直すべきでないか。防災訓練も水害を想定した訓練をするべきでないかというものです。

（平成29年７月30日発行、議会報ダイジェストに掲載）

「気候非常事態」に関する決議を提案

環境省の「2018年〈～日本の気候変動とその影響～〉」によると、昨今の豪雨災害には温暖化による気温上昇が影響していると考えられています。今回の大災害の起因も地球の温暖化による気候変動であるとし、長野県は令和元年10月６日に「気候非常事態」を宣言しました。常々異常気象による洪水被害について警告していた中村眞一議員は、いち早く、「気候非常事態」議案を令和元年12月19日議会最終日に提案し、これを受け、議会では「気候非常事態」の議決がされました。

長野県「気候非常事態」を宣言

長野県では令和元年10月６日に「気候非常事態」を宣言した。地球温暖化対策として、省エネと再生可能エネルギーの移行を進め、2050年にCO_2排出実質ゼロを目指すとしたもので、国内の都道府県では初めてのケースである。

令和元年の台風19号が県内に甚大な被害を及ぼしたことを受けて、長野県議会が「気候非常事態」を出すよう提案し、議決されたことに応えたものである。

「気候非常事態」の宣言を

千曲市会が市側に求める決議

千曲市議会は12月定例会最終日の19日、地球温暖化対策に取り組む姿勢を示す「気候非常事態宣言」を出すよう市に求める議員提出の決議案を全会一致で可決した。温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目指し、市と市民が一体となって取り組みを進める―との内容。岡田昭雄市長は閉会あいさつで「しっかり受け止めて検討していく」と述べた。

決議は、台風19号による大雨で千曲川が増水し「市民の平穏な暮らしが奪い去られた」と指摘。地球温暖化による気候変動が大雨をもたらす一因とし、「千曲川の恩恵を受けてきた千曲市だからこそ（中略）温室効果ガスをできる限り減らし、市民とともに気候変動に対して行動を起こさなければならない」とした。

決議案は中村真一議員が提出。議員4人が賛成者に名を連ねた。

市議会は、台風19号の災害対応の促進を市に求める決議案も全会一致で可決。「未来を見据えた復旧・復興計画の策定」「被災者の生活再建へきめ細やかで切れ目のない支援」などを求めている。市提出の12議案も原案通り可決した。

信濃毎日新聞の記事（令和２年１月20日付）

「気候非常事態」に関する決議

世界の温室効果ガスの排出量は、今も増え続けている。そのため地球温暖化の進行に伴い世界各地では記録的な高温や豪雨など異常気象が頻発し、多くの被害が発生している。熱波による干ばつや森林火災、海面上昇は世界の島々を脅かし、巨大台風の発生はより高頻度になっている。

日本でも、これまでに無い猛暑や、巨大化した台風、集中豪雨など、各地で気候変動による異常気象が起こり多くの被害が発生している。

わが市は千曲川の大河に抱かれ、四季を通じて豊かで美しい自然と景観に恵まれている。

この自然の恵まれた市を、私たちは次の世代につないでいかなければならない。環境の行方は若い人たちに重くのしかかっている。過去に責任を持つ私たちは今こそ真剣に考えていかねばならない。

本市は災害の少ない市として知られてきた。しかし令和元年10月の台風19号は、穏やかであった千曲川を一変させ最高水位は氾濫危険水位の5mを1.4mも上回る6.4mに達し甚大な被害となり、貴重な財産や市民の平穏な暮らしが奪い去られてしまった。

地球温暖化に起因する気候変動は、世界中で危機感が広がり新たな枠組みである「パリ協定」が採択された。オーストラリア・デアビン市から始まり、現在は世界で1,200以上の自治体が、「気候非常事態」宣言を行い日本でも長野県などが宣言をし、脱炭素化を目指す取り組みが始まっている。

本市にとっても極めて深刻な脅威であり、雄大な千曲川の恩恵を受けてきた本市だからこそ、人間の生活や経済活動で排出される二酸化炭素などの温室効果ガスをできる限り減らし、市民と共に気候変動に対して行動を起こさなければならない。

よって本市議会は、温室効果ガス排出量“実質ゼロ”を目指す運動を市民一体となって推進していくため「気候非常事態」を宣言することを強く求めるものである。

以上のとおり決議する。

―採択結果―
全会一致で可決